

第6学年 道徳科学習指導案

第6学年1組 19名

指導者 佐々木哲男

1 主題名 広い心で

B- (11)	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で相互理解、寛容 分と異なる意見や立場を尊重すること。
---------	--

2 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

人間は、自分の立場を守るため、つい他人の失敗や過ちを一方的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど、自己本位に陥りやすい弱さをもっている。自分自身が成長の途上にあり、至らなさをもっていることなどを考え、自分を謙虚に見ることについて考えさせることが大切である。相手から学ぶ姿勢を常にもち、自分と異なる意見や立場を受けとめることや、広い心で相手の過ちを許す心情や態度は、多様な人間が共によりよく生きるために必要な資質・能力である。

また、今日重要な教育課題の一つにいじめ問題がある。いじめをする側の問題として自分と異なる考えを受け入れず否定してしまうことや、自分にも相手と同様なことがあるという謙虚さが十分でないことが挙げられている。いじめを生まない心や環境をつくるためにも、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすることを育むことが重要であると考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、互いのものの見方や考え方の違いを今まで以上に意識するようになってきている。自分と考えや思いが異なる相手に対して攻撃的な言動をとってしまったり、相手の忠告を素直に聞き入れられなかったりすることがある。また、学校生活のさまざまな場面で、互いに協力しようとする反面、個々の意見がぶつかり合うことも増えてきた。

このようなときに、自分の意見や判断に固執するのではなく、相手の立場や意見を受け入れることの大切さに気づかせることが重要であると考え。

(3) 教材について

(教材名「ブランコ乗りとピエロ」
出典：光文書院)

サーカスをまとめるリーダーのピエロとスターきどりと言うことを聞かないサム。大王を招いての公演でも、一人目立つサムに、ピエロの怒りは頂点に達する。しかし、観客のために力いっぱいがんばるサムの姿にピエロは心を打たれ、これをきっかけに相互理解が深まっていく。

「相手のことを受け入れる」、「自分自身を見つめる」など、「人を許す」ために何が必要かを考えることができる教材である。

(4) 語り合い・深め合う学びのための工夫

導入段階では、「許せない」と思った経験について話し合い、その時の心情を想起する活動を取り入れる。

中心発問においては、児童の体験をもとに問題解決ができるよう発問を工夫し、どうしたら許すことができるのかを一人一人が考えられるようにする。全体の話し合いでは、児童の考えを分類・整理したり、問い返しによって、より詳しい思いを引き出したりしながら、人を許すために必要なことをより深く考えられるようにする。その際、「相手に関すること」と「自分自身に関すること」という二つの面からまとめ、道徳的価値に迫るようにする。

終末では、再度自分の経験をふり返り、広い心をもつために大切にしたいことについて考え、よりよい人間関係を築こうとする意欲が高まるようにする。